



**堺化学工業株式会社**

**2025年3月期**

# **中間決算説明会**

**2024年12月2日**

【東京証券取引所・プライム市場 証券コード：4078】

# 2025年3月期中間期 決算サマリー

● 前年同期比（売上高：+3.5% / 営業利益：+186.4%）

売上高は、効率化検討事業の効率化に向けた販売量減少の影響が大きく、全体としては微増となった。  
営業利益は、全体を通じた価格改定や、成長事業である電子材料での販売数量回復により、大きく改善した。

外部要因		内部要因	
プラス面	マイナス面	プラス面	マイナス面
<ul style="list-style-type: none"> <li>・半導体市場の復調</li> <li>・国内亜鉛市況の上昇</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国経済の長引く低迷</li> <li>・国内建材関連の需要低迷</li> <li>・車載関連の荷動きの低迷</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・価格改定の実施</li> <li>・操業度の改善</li> <li>・前期実施の減損処理による費用減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一過性の評価損</li> </ul>

● 計画比（売上高 ▲0.3% / 営業利益 +9.4%）

売上高は、期初に想定していた事業環境で推移したため、概ね計画通りとなった。  
営業利益は、価格改定の浸透や、操業度の改善もあり、計画を上回る利益を達成した。

外部要因		内部要因	
プラス面	マイナス面	プラス面	マイナス面
<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内亜鉛市況の上昇</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国経済の長引く低迷</li> <li>・車載関連の荷動きの低迷</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・操業度の改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一過性の評価損</li> </ul>

# 中期経営計画「変革・BEYOND2030」の進捗経過

---

# 「変革・BEYOND2030」の位置づけ

将来に向けた変革ステージとして、**高付加価値品シフト**に集中的に取り組む



# 成長事業の事業戦略

電子材料・化粧品材料に加えて、有機化学品を新たな成長ドライバーと位置づけ、既存事業の成長投資とM&A活用により利益成長に取り組む

## 電子材料

- 誘電体：新製品によるハイエンド・ミドルエンド市場の取り込み、不採算品の価格改定
- 誘電体材料：製品ポートフォリオ見直し（高収益品の積極拡販、不採算品の価格是正）

<攻める分野> **エレクトロニクス**

## 化粧品材料

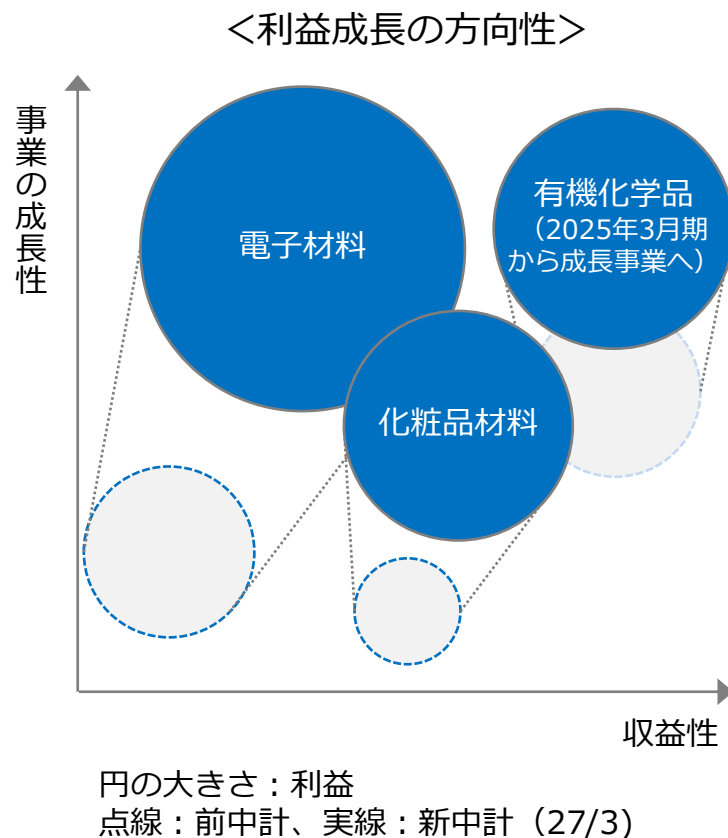
- サンスクリーン剤：表面処理技術・処方提案による海外化粧品メーカーへの拡販（性能評価クリア、生産体制整備済み）
- メイク製品：次期中計期間の収益貢献に向けた先行投資

<攻める分野> **ライフサイエンス・ヘルスケア**

## 有機化学品

- メガネレンズ材料：成長率の高い高屈折製品に対し、トップシェアの維持・拡大を企図したリソース投入
- 医薬品原薬中間体：増設による既存受託品の更なる拡販、CDMOの進展

<攻める分野> **エレクトロニクス**  
**ライフサイエンス・ヘルスケア**



# 効率化検討事業の事業戦略

## 継続的に収益貢献が可能な事業・製品に絞り、安定事業へ

### 酸化チタン・亜鉛

- 価格改定等による赤字解消（2025年3月期）
  - 設備投資効率が高く、生産工程における環境負荷の高い **顔料級酸化チタンの事業終了（2026年3月期）** 及び固定費比率上昇に向けた改善を含めた **構造改革の実施**
- 亜鉛等一部製品は**安定事業**へ

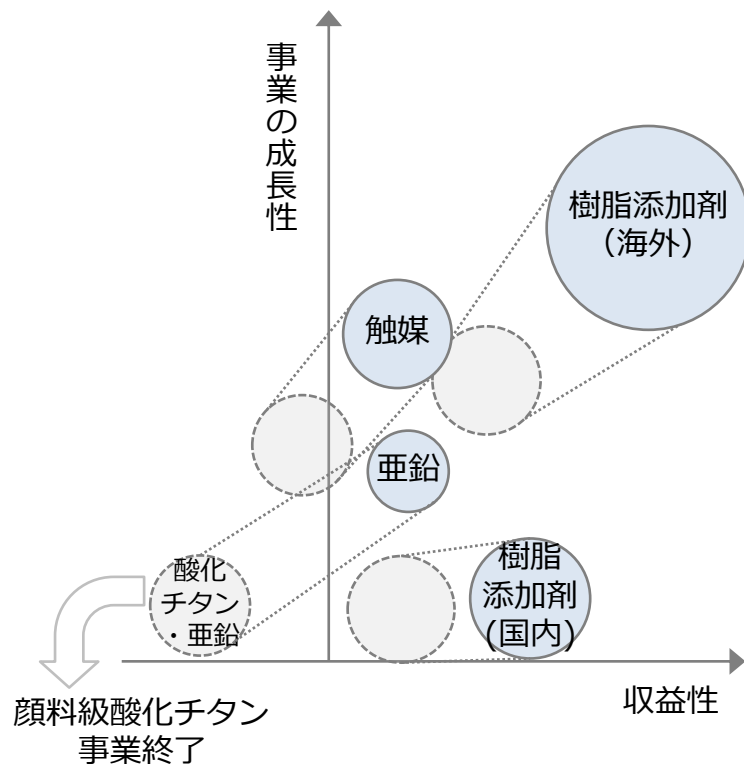
### 樹脂添加剤

- 国内：製造委託品の鉛系安定剤撤退(2026年3月期)
  - 海外：非鉛系安定剤へのシフト（増産投資実施）とASEAN地区での拡販
- 海外シフトにより**安定事業**へ

### 触媒

- 生産拠点集約による効率化（2025年3月期）、収率改善によるコストダウン
  - 低収益品の価格是正による収益改善
- 生産拠点整理・価格改定により**安定事業**へ

＜利益改善・成長の方向性＞



円の大きさ：利益  
点線：前中計、実線：新中計（27/3）

# 「変革・BEYOND2030」の進捗経過①

## ■ 計画対比（営業利益）

（単位：百万円）

	25.3 計画	25.3 上期	進捗率 (%)
<b>成長事業</b>	<b>2,218</b>	<b>805</b>	<b>36.3</b>
電子材料	1,023	614	60.0
化粧品材料	63	▲106	—
有機化学品	1,132	297	26.2
<b>効率化検討事業</b>	<b>1,586</b>	<b>981</b>	<b>61.9</b>
酸化チタン・亜鉛製品	763	374	49.0
樹脂添加剤	1,014	628	61.9
触媒	▲191	▲21	—

成長事業	成長事業全体としては、期初より下期以降に利益を出す計画であり、一時的なマイナス要因もあって、進捗率としては低い。
効率化検討事業	前期に実施した減損処理による固定費の削減(減価償却費/300百万円) や、価格改定、販売構成の見直し等により、好調な滑り出しとなった。

# 「変革・BEYOND2030」の進捗経過②

## ■ CCC 目標：180日以下（27.3）

（単位：日）

	24.3	24.9	増減
売上債権 回転期間	130	116	▲14
棚卸資産 回転期間	126	117	▲9
仕入債務 回転期間	40	39	▲1
<b>CCC</b>	<b>216</b>	<b>194</b>	<b>▲22</b>

【算出条件】 運転資金 ÷ 売上高 × 12か月（6か月） × 30日

製品単価・原材料単価は高騰したものの、棚卸資産の数量削減に努め、棚卸資産回転期間の短縮と併せ、CCCの改善が進んだ。

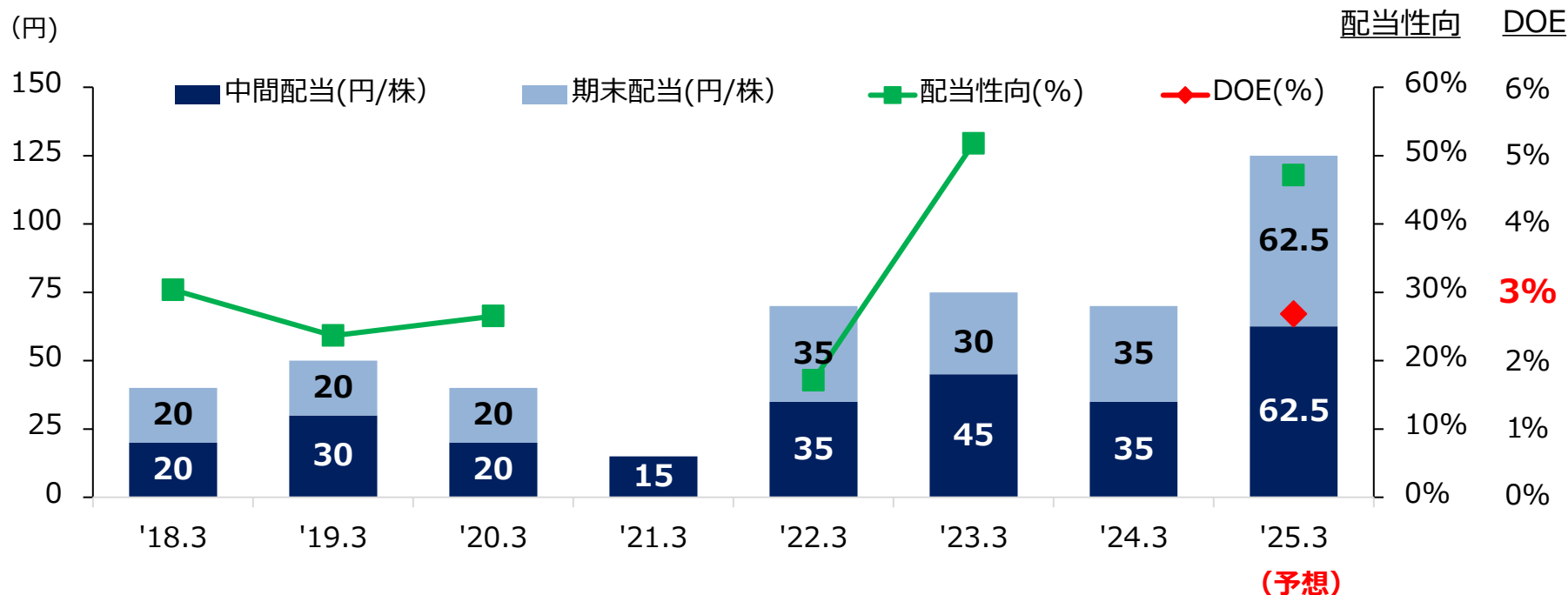
→ これによる営業CFの創出額は40億円（中期経営計画は3カ年累計70億円）。



# 株主還元

---

# 株主還元



## 【2025年3月期】

1株当たり年間**125円**を予定【**中間62.5円**（確定）、**期末62.5円**（予定）】

## 【2025年3月期～2027年3月期の剰余金の配当の基本方針】

「配当性向30%以上を目安に」を改め、「**DOE 3%を目安に**」利益還元を実施（2回/年）

DOE : Dividend on Equity（自己資本配当率）

# 2025年3月期 中間決算業績について

---

# 2025年3月期中間決算業績概要（前年同期比、計画比）

	24.3 上期 実績		25.3 上期 実績		前年同期比		25.3 上期 計画		計画比	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	40,471	100.0	41,874	100.0	1,403	3.5	42,000	100.0	▲126	▲0.3
営業利益	917	2.3	2,626	6.3	1,709	186.4	2,400	5.7	226	9.4
経常利益	885	2.2	2,633	6.3	1,748	197.5	2,300	5.4	333	14.5
親会社株主に帰属する当期純利益	▲2,033	—	1,746	4.2	3,779	—	1,600	3.8	146	9.1
EPS	▲125円53銭		107円71銭		—		98円70銭		—	

## 前年同期比

## 計画比

売上高

効率化検討事業中心に販売量は減少したが、電子材料の販売量が大幅に回復し、価格改定の浸透もあり、国内亜鉛市況の上昇もあって、3.5%の増収となった。

半導体市況の復調に伴い、電子材料での販売が想定よりも好調に推移し、酸化チタンなど効率化検討事業の売上高の減少をカバーし、計画比 ▲0.3 %となった。

営業利益

電子材料の復調と、価格改定及び減損処理効果が相まった効率化検討事業の利益改善により、186.4%の増益となった。

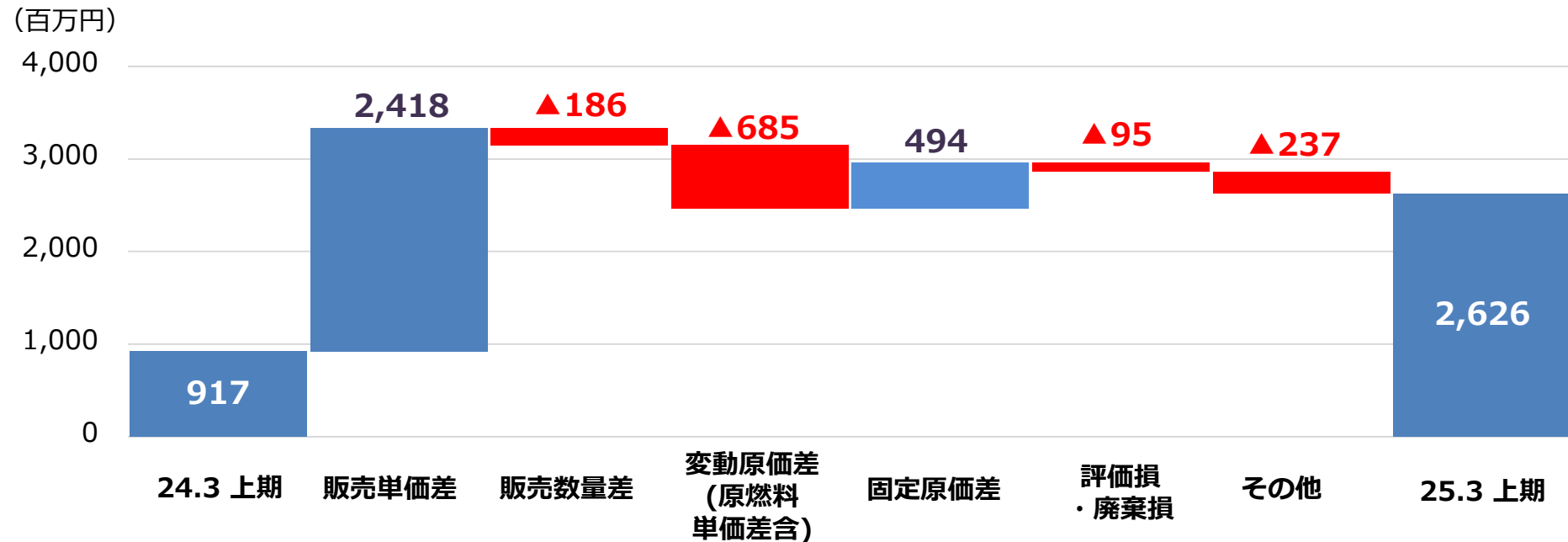
販売面では、電子材料での好調な推移に加え、樹脂添加剤の海外拠点での非鉛系安定剤の拡販が好調に推移し、製造面でも稼働が堅調に推移したため、計画比+9.4%となった。

# セグメント別売上高/営業利益（前年同期比、進捗率）

		24.3 上期		25.3 上期		前年同期比		25.3 計画		進捗率
		百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	%
化学事業	売上高	36,313	—	37,609	—	1,296	3.6	78,825	—	47.7
	営業利益	1,896	5.2	3,783	10.1	1,887	99.5	7,736		48.9
医療事業	売上高	4,158	—	4,264	—	106	2.5	8,175	—	52.2
	営業利益	144	3.5	65	1.5	▲79	▲54.9	100		52.2
調整額	本社部門費	▲1,125	—	▲1,223	—	▲98	—	▲2,436	—	50.2
合計	売上高	40,471	—	41,874	—	1,403	3.5	87,000	—	48.1
	営業利益	917	2.3	2,626	6.3	1,709	186.4	5,400		48.6

\* 本社部門費：「▲」が増加を示す。

# 営業利益増減要因（前年同期比）



## プラス要因

### 販売単価差

- ・前期から取り組む価格改定によるベースアップ効果
- ・採算是正や不採算品の廃番等による販売構成の改善

### 固定原価差

前期3Qに実施した減損処理効果は約300百万円

## マイナス要因

### 変動原価差

原燃料高の影響

### 評価損・廃棄損（一過性要因）

化粧品材料：改良工事に伴う在庫評価損

医療事業：1Qに発生した不良品の評価損

# 貸借対照表比較

(単位：百万円)

比較連結 B/S	24.3	24.9	増減
現金及び預金	16,590	14,761	▲1,829
受取手形及び売掛金	29,570	27,083	▲2,487
棚卸資産	28,747	27,133	▲1,614
その他	1,133	1,298	165
<b>流動資産 合計</b>	<b>76,042</b>	<b>70,276</b>	<b>▲5,766</b>
有形固定資産	40,463	42,852	2,389
その他	8,938	8,117	▲821
<b>固定資産 合計</b>	<b>49,402</b>	<b>50,969</b>	<b>1,567</b>
<b>資産 合計</b>	<b>125,445</b>	<b>121,246</b>	<b>▲4,199</b>
支払手形及び買掛金	9,066	9,026	▲40
短期借入金	15,108	9,014	▲6,094
その他	7,582	7,714	132
<b>流動負債 合計</b>	<b>31,757</b>	<b>25,755</b>	<b>▲6,002</b>
長期借入金	8,930	9,213	283
転換社債型新株予約権付社債	3,000	3,000	-
その他	6,290	6,136	▲154
<b>固定負債 合計</b>	<b>18,220</b>	<b>18,350</b>	<b>130</b>
<b>負債 合計</b>	<b>49,978</b>	<b>44,106</b>	<b>▲5,872</b>
株主資本	71,183	72,424	1,241
その他	4,282	4,715	433
<b>純資産 合計</b>	<b>75,466</b>	<b>77,140</b>	<b>1,674</b>
<b>負債・純資産 合計</b>	<b>125,445</b>	<b>121,246</b>	<b>▲4,199</b>

## 【主な増減】

### ・売上債権 ▲2,487百万円 (▲8.4%)

- ①2024年3月31日は銀行休業日の為、一部売掛金の入金が翌営業日にずれ込んだ。
- ②医薬品原薬中間体の、上期における一時的な売上高の大幅な減少
- ③回収サイトの短縮

### ・棚卸資産 ▲1,614百万円 (▲5.6%)

製品・原材料ともに単価の上昇はあるものの、数量削減努力により、圧縮した。

### ・有形固定資産 +2,389百万円 (+5.9%)

- ①成長事業への投資  
(有機化学品/医薬品原薬中間体CDMO進出)
- ②効率化検討事業の再構築関連(触媒事業)

### ・短期借入金の返済 ▲6,094百万円(▲40.3%)

	24.3期末	24.9期末
自己資本比率	59.3%	62.7%
CCC	216日	194日

▲ 22日の改善

(\*CCC：キャッシュ・コンバージョン・サイクル)



# キャッシュフロー計算書比較

(単位：百万円)

比較連結 C/F	23.9	24.9	増減
期首 現預金残高	12,188	16,475	4,287
税金等調整前当期純利益又は当期純損失	773	2,416	1,643
減価償却費	2,255	1,828	▲427
売上債権の増減額	▲918	2,492	3,410
棚卸資産の増減額	60	1,771	1,711
仕入債務の増減額	1,183	▲158	▲1,341
減損損失			-
法人税等の支払額、還付額	▲215	▲292	▲77
消費税等の支払額、還付額	558	▲649	▲1,207
その他	▲510	11	521
<b>営業活動によるキャッシュフロー</b>	<b>3,187</b>	<b>7,420</b>	<b>4,233</b>
有形固定資産の取得による支出	▲1,646	▲3,693	▲2,047
投資有価証券売却	60	786	726
その他	▲40	▲44	▲4
<b>投資活動によるキャッシュフロー</b>	<b>▲1,625</b>	<b>▲2,952</b>	<b>▲1,327</b>
<b>FCF(営業CF+投資CF)</b>	<b>1,562</b>	<b>4,468</b>	<b>2,906</b>
短期借入金・長期借入金の増減額	1,702	▲5,835	▲7,537
新株予約権付社債の発行による収入	3,000	-	▲3,000
配当金の支払額	▲519	▲590	▲71
子会社株式の取得による支出	▲2,631	▲150	2,481
その他	34	▲0	▲34
<b>財務C/F 計</b>	<b>1,587</b>	<b>▲6,578</b>	<b>▲8,165</b>
<b>現預金に係る換算差額 計</b>	<b>186</b>	<b>268</b>	<b>82</b>
<b>現預金増減 計</b>	<b>3,336</b>	<b>▲1,841</b>	<b>▲5,177</b>
期末 現預金残高	15,524	14,633	▲891

## ・営業CF

### ①売上債権の減少

前期末が銀行休業日だったことによる  
売掛金入金の期ずれ  
医薬品原薬中間体での一時的な販売の  
減少

### ②当期純利益の増加

利益の改善による増加

### ③棚卸資産の減少

在庫数量の圧縮

## ・投資CF

主に、今後注力していく有機化学品の  
医薬品原薬中間体のCDMOへの進出を  
目的とした有形固定資産取得を実行。

→ **FCFは、2,906百万円 増加**

## ・財務CF

短期借入金の返済



# 2025年3月期業績予想

---

# 2025年3月期業績予想（通期予想は変更なし）

	24.3		25.3			
	通期実績		上期実績		通期予想	
	百万円	売上高比	百万円	売上高比	百万円	前期比
売上高	82,105	—	41,874	—	87,000	6.0%
営業利益	2,942	3.6%	2,626	6.3%	5,400	83.5%
経常利益	3,066	3.7%	2,633	6.3%	5,200	69.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲7,092	▲8.6%	1,746	4.2%	4,300	—

上期実績は予想から上振れたが、事業環境の先行き不透明感を考慮し通期予想を据え置いた

外部要因（想定）		内部要因（想定）	
プラス面	マイナス面	プラス面	マイナス面
<ul style="list-style-type: none"> <li>・半導体市場はAI関連が好調に推移</li> <li>・国内亜鉛市況の上昇</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国経済低迷の長期化</li> <li>・車載関連の需要低迷</li> <li>・国内建材関連の需要低迷</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・価格改定の継続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・売上構成の悪化</li> </ul>

# 設備投資・減価償却・研究開発費推移

(単位：百万円)

	21.3	22.3	23.3	24.3	25.3 上期	25.3 計画
設備投資	9,567	5,967	2,658	4,024	3,693	8,500
減価償却費	4,243	4,331	4,417	4,354	1,828	4,000
研究開発費	2,487	2,376	2,674	2,722	1,291	3,000

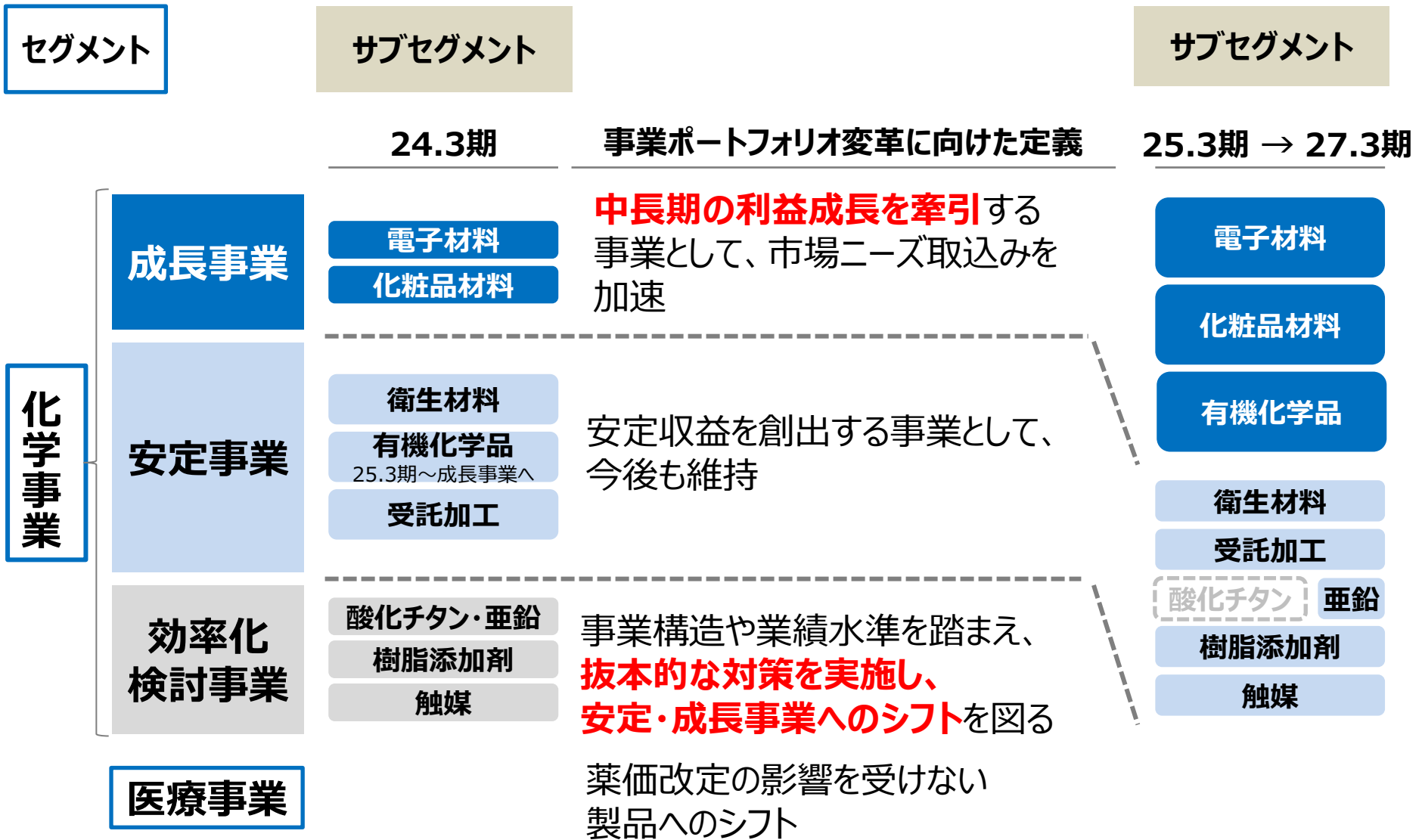
## 設備投資について

	成長投資	効率化に向けた投資（維持更新費用込み）
25.3 上期	約50%	約50%
主な内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>有機化学品： 医薬品原薬中間体CDMO化対応</li> <li>化粧品材料： メイク材料向けマルチプラント建設</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>堺・小名浜両事業所再構築</li> <li>触媒事業の効率化対応（拠点集約関連）</li> </ul>

# 2025年3月期中間期 セグメント別結果

---

# セグメント・サブセグメントの関係性

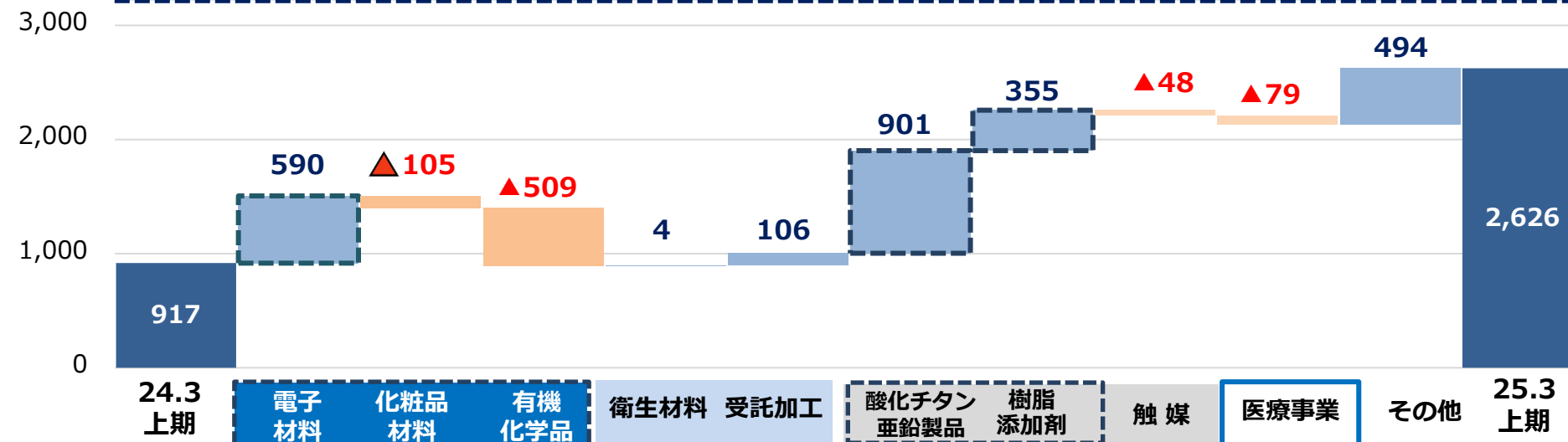


# サブセグメント営業利益増減（対前年同期比）



(百万円)

- ▶ 成長事業は、電子材料で利益回復するも、有機化学品で一時的な減益により利益は微減となった。
- ▶ 効率化検討事業（酸化チタン・亜鉛製品 / 樹脂添加剤）が、増益に大きく貢献した。



## 電子材料

## ● 前年同期比

	24.3 上期		25.3 上期		増 減	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	4,097	—	5,886	—	1,789	43.7
営業利益	24	0.6	614	10.4	590	2458.3

## ● 計画比

	25.3 計画		25.3 上期		計画進捗率	
	百万円	%	百万円	%	%	
売上高	10,913	—	5,886	—	53.9	
営業利益	1,023	9.4	614	10.4	60.0	

## ● 前年同期比

売上高	<b>(+) 販売数量の増加</b> 前期下期以降の半導体市況の回復に伴い、民生用途を中心に主に誘電体材料での販売数量が回復し、大きく増収となった。
営業利益	<b>(+) 販売数量の回復、操業度の改善、価格改定の浸透</b> 誘電体材料を中心とした販売数量の回復とともに、操業度が改善し、価格改定の浸透もあったことから、大きく増益となった。

## ● 計画比

売上高	<b>(+) 販売数量の増加、価格改定の浸透</b> 半導体市況の回復に伴い出荷が好調に推移し、価格改定の浸透も進んだことにより計画進捗率は54%となった。
営業利益	<b>(+) 販売数量の増加、価格改定の浸透、操業度の改善</b> 販売が好調だったことで操業度も上がり、価格改定の効果も相まって、計画進捗率は60%となった。 セグメント別の通期予想を上方修正

## 化粧品材料

## ● 前年同期比

	24.3 上期		25.3 上期		増 減	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	1,202	—	1,212	—	10	0.8
営業利益	▲1	▲0.1	▲106	▲8.7	▲105	—

## ● 計画比

	25.3 計画		25.3 上期		計画進捗率
	百万円	%	百万円	%	%
売上高	3,016	—	1,212	—	40.2
営業利益	63	2.1	▲106	—	—

## ● 前年同期比

売上高	<b>(+) 価格改定の浸透、(-) 販売数量の減少</b> 販売数量はやや減少したが、価格改定の浸透により前期並みとなった。
営業利益	<b>(-) 販売構成の悪化、工程改良に伴う費用の計上</b> 販売構成が悪化したことに加え、生産工程の改良工事に伴う一時的な費用を計上したことにより減益となった。

## ● 計画比

売上高	<b>(-) 販売数量の減少</b> 中国の需要低迷により販売数量が減少し、計画進捗率は40%となった。
営業利益	<b>(-) 販売数量の減少、工程改良に伴う費用の計上</b> 数量減により売上を伸ばせなかったこと、また、生産工程の改良工事に伴う一時的な費用を計上したこともあり赤字となった。 セグメント別の通期予想を下方修正



## 有機化学品

## ● 前年同期比

	24.3 上期		25.3 上期		増 減	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	3,727	—	3,189	—	▲538	▲14.4
営業利益	806	21.6	297	9.3	▲509	▲63.2

## ● 計画比

	25.3 計画		25.3 上期		計画進捗率	
	百万円	%	百万円	%	%	
売上高	7,377	—	3,189	—	43.2	
営業利益	1,132	15.3	297	9.3	26.2	

## ● 前年同期比

売上高	<b>(-) 販売数量の減少、販売構成の悪化</b> プラスチックレンズ向け添加剤（メガネレンズ材料）は、一時的な販売数量の減少により、また医薬品原薬中間体では、商流品の出荷と出荷の谷間となり、試作品中心の出荷となったため、減収となった。
営業利益	<b>(-) 販売数量の減少、販売構成の悪化</b> プラスチックレンズ向け添加剤では販売数量の減少が影響し、医薬品原薬中間体では試作品中心の販売となり一時的に販売構成が悪化したため、減益となった。

## ● 計画比

売上高	<b>(-) 販売数量の減少</b> プラスチックレンズ向け添加剤の販売量が減少し医薬品原薬中間体は下期に偏重する販売計画であるため、計画進捗率は43%となった。
営業利益	<b>(-) 販売数量の減少、販売構成の悪化</b> 下期に偏重する計画であり、医薬品原薬中間体の販売数量は順調に推移したが、販売構成の悪化もあり計画進捗率は26%となった。 セグメント別の通期予想を下方修正

## 衛生材料

## ● 前年同期比

	24.3 上期		25.3 上期		増 減	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	2,763	—	2,878	—	115	4.2
営業利益	256	9.3	260	9.0	4	1.6

## ● 計画比

	25.3 計画		25.3 上期		計画進捗率
	百万円	%	百万円	%	%
売上高	5,966	—	2,878	—	48.2
営業利益	465	7.8	260	9.0	55.9

## ● 前年同期比

売上高	<b>(+)販売数量の増加</b> 円安により輸入商材の販売は苦戦しているものの、オムツや生理用品向けの通気性フィルムの製造・販売は堅調に推移し、増収となった。
営業利益	<b>(+)安定操業、堅調な販売</b> 前期から継続している収率改善が寄与し、安定した需要にも支えられ利益水準を維持した。

## ● 計画比

売上高	<b>(-)販売数量の減少</b> 円安の影響により輸入商材の荷動きが鈍化し、計画進捗率は48%となった。
営業利益	<b>(+)安定操業</b> 安定操業の継続により、計画進捗率は56%となった。

## 受託加工

## ● 前年同期比

	24.3 上期		25.3 上期		増 減	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	3,009	—	3,155	—	146	4.9
営業利益	213	7.1	319	10.1	106	49.8

## ● 計画比

	25.3 計画		25.3 上期		計画進捗率
	百万円	%	百万円	%	%
売上高	6,303	—	3,155	—	50.1
営業利益	511	8.1	319	10.1	62.4

## ● 前年同期比

売上高	<b>(+) 販売数量の増加</b> 工程受託では、既存顧客からの受託数量の回復や新規採用による受託数量の増加があり、加工顔料では、一部年末商戦に向けての在庫積み増しによる出荷数量の増加もあり、増収となった。
	営業利益

## ● 計画比

売上高	<b>(+) 販売数量の増加</b> 工程受託・加工顔料ともに、出荷数量が堅調に推移したことで、計画進捗率は50%となった。
	営業利益

# 酸化チタン・亜鉛製品（化粧品材料を除く）

## ● 前年同期比

	24.3 上期		25.3 上期		増 減	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	7,074	—	6,929	—	▲145	▲2.0
営業利益	▲527	▲7.4	374	5.4	901	—

## ● 計画比

	25.3 計画		25.3 上期		計画進捗率	
	百万円	%	百万円	%	%	
売上高	13,845	—	6,929	—	50.0	
営業利益	763	5.5	374	5.4	49.0	

## ● 前年同期比

売上高	<b>(-) 販売数量の減少</b> 酸化チタンは、中国品の安価攻勢を追いかけず、採算性重視の戦略もあり販売数量が減少した。亜鉛製品は、自動車タイヤ向けの販売が振るわず、減収となった。
	営業利益

## ● 計画比

売上高	<b>(+) 堅調な販売数量</b> 酸化チタン、亜鉛製品ともに販売数量は概ね計画通り推移し、計画進捗率は50%となった。
	営業利益

# 樹脂添加剤

## ● 前年同期比

	24.3 上期		25.3 上期		増 減	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	6,944	—	6,558	—	▲385	▲5.6
営業利益	273	3.9	628	9.6	355	130.0

## ● 計画比

	25.3 計画		25.3 上期		計画進捗率	
	百万円	%	百万円	%	%	
売上高	14,308	—	6,558	—	45.8	
営業利益	1,014	7.1	628	9.6	61.9	

## ● 前年同期比

売上高	<b>(-) 販売数量の減少</b> 海外では非鉛系安定剤等の販売が好調に推移したが、国内住宅着工件数の減少の影響や、採算重視で出荷を抑制した低採算品の数量減により減収となった。
	営業利益
	<b>(+) 価格改定、販売構成の改善</b> 国内での価格改定の浸透や、海外での非鉛系安定剤の拡販により販売構成が改善し、増益となった。

## ● 計画比

売上高	<b>(-) 販売数量の減少</b> 国内需要の低迷、中国経済の長引く停滞の影響により、販売数量が伸びず、計画進捗率は46%となった。
	営業利益
	<b>(+) 販売構成の改善</b> 低採算品の数量減や海外での非鉛系安定剤の拡販により、販売構成が改善し、計画進捗率は62%となった。

# 触媒

## ● 前年同期比

	24.3 上期		25.3 上期		増 減	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	1,689	—	1,615	—	▲73	▲4.3
営業利益	27	1.6	▲21	▲1.3	▲48	▲177.8

## ● 計画比

	25.3 計画		25.3 上期		計画進捗率
	百万円	%	百万円	%	%
売上高	3,544	—	1,615	—	45.6%
営業利益	▲191	▲5.4	▲21	▲1.3	—

## ● 前年同期比

売上高	<b>(-) ニッケル市況の下落</b> ニッケル触媒、脱硝触媒ともに販売数量は増加したが、ニッケル市況の下落に伴い販売単価が押し下げられ、減収となった。
営業利益	<b>(-) ニッケル市況の下落、一時的な販売構成の悪化</b> ニッケル触媒は、ニッケル市況の下落による販売単価への影響があり、脱硝触媒は一時的な販売構成の悪化を受け、減益となった。

## ● 計画比

売上高	<b>(-) ニッケル市況の下落</b> 出荷数量は増加したが、ニッケル市況の下落による影響を受け、計画進捗率は46%となった。
営業利益	<b>(+) 出荷数量の増加、価格改定</b> 出荷数量が増加し、価格改定の浸透もあったことから、赤字幅は縮小した。 セグメント別の通期予想を上方修正

## 医療事業

## ● 前年同期比

	24.3 上期		25.3 上期		増 減	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	4,158	—	4,264	—	106	2.6
営業利益	144	3.5	65	1.5	▲79	▲54.6
売上高 (新規事業)	903	—	898	—	▲5	▲0.6

\* 新規事業とは、薬価改定の影響を受けない事業のことです。

## ● 計画比

	25.3 計画		25.3 上期		計画進捗率
	百万円	%	百万円	%	%
売上高	8,175	—	4,264	—	52.2
営業利益	100	1.2	65	1.5	65.0
売上高 (新規事業)	1,843	—	898	—	48.7

## ● 前年同期比

売上高	<b>(+) バリウム造影剤の薬価改定、医療機器の販売増</b> バリウム造影剤の出荷数量は減少したが、一部薬価引き上げの効果や、医療機器の販売数量増により、増収となった。
営業利益	<b>(-) 評価損の計上</b> バリウム造影剤において一過性の評価損が1Qに発生し、減益となった。

## ● 計画比

売上高	<b>(-) 一般医薬品の販売減少</b> 上期に偏重する計画であったが、一般用医薬品の荷動きが鈍化した影響で、計画進捗率は52%となった。
営業利益	<b>(-) 評価損の計上</b> 上期に偏重する計画であったが、バリウム造影剤の評価損を計上したこともあり、計画進捗率は65%となった。その影響も加味し、セグメント別の通期予想を下方修正

# 事業環境の認識

	サブセグメント	25.3期 予想の前提（5月時点）	25.3期 予想の前提（11月時点）
成長事業	電子材料	半導体市場は前期後半から回復基調にあり、今期も期初から同様に推移する。	半導体市場は、少なくとも自動車向けは低調に推移する。
	化粧品材料	国内需要：引き続き堅調に回復していく。 海外需要：徐々に回復に転じていく。	国内外ともに堅調に回復していくが、中国向けは引き続き厳しい見通し。
	有機化学品	メガネレンズ市場は、堅調に推移していく。	同左
効率化検討事業	酸化チタン 亜鉛製品	酸化チタンは供給過多の状況が続き、安価海外品が引き続き国内に流入する厳しい販売状況が継続する。	同左
	樹脂添加剤	国内需要：PVC市況も下降傾向で、販売の増加は厳しい見込み。  海外需要：PVC市況の拡大とともに、鉛系から非鉛系安定剤への切り替えが進んでいく。	国内需要：同左  海外需要：中期的なPVC市況の拡大には変わらないものの、短期的にはタイの洪水や中国経済の影響によりやや減速感あり。

PVC : polyvinyl chloride (ポリ塩化ビニル)



# サブセグメント別予想

事業環境の変化や上期の進捗を踏まえ、セグメントごとの通期計画を見直し

※連結業績予想は修正なし

	24.3 期 実績			25.3 期 通期修正予想			差			
	売上高	営業利益	利益率	売上高	営業利益	利益率	売上高		営業利益	
	百万円	百万円	%	百万円	百万円	%	百万円	%	百万円	%
電子材料	8,978	280	3.1	11,313	1,223	10.8	2,335	26.0	943	336.8
化粧品材料	2,498	▲ 93	▲3.7	2,716	0	0.0	218	8.7	93	▲100.0
有機化学品	7,813	1,395	17.9	7,000	900	12.9	▲813	▲10.4	▲495	▲35.5
衛生材料	5,455	404	7.4	5,966	465	7.8	511	9.4	61	15.1
受託加工	6,177	546	8.8	7,103	571	8.0	926	15.0	25	4.6
酸化チタン 亜鉛製品	14,269	▲ 423	▲3.0	13,845	763	5.5	▲424	▲3.0	1,186	▲280.4
樹脂添加剤	13,418	636	4.7	13,558	1,014	7.5	140	1.0	378	59.4
触媒	3,527	73	2.1	3,544	▲36	▲1.0	17	0.5	▲109	▲149.3
医薬事業	7,995	86	1.1	8,375	5	0.1	380	4.8	▲81	▲94.2
その他	11,975	38	0.3	13,580	494	3.6	1,605	13.4	456	1200.0
<b>連結</b>	<b>82,105</b>	<b>2,942</b>	<b>3.6</b>	<b>87,000</b>	<b>5,400</b>	<b>6.2</b>	<b>4,895</b>	<b>6.0</b>	<b>2,458</b>	<b>83.5</b>

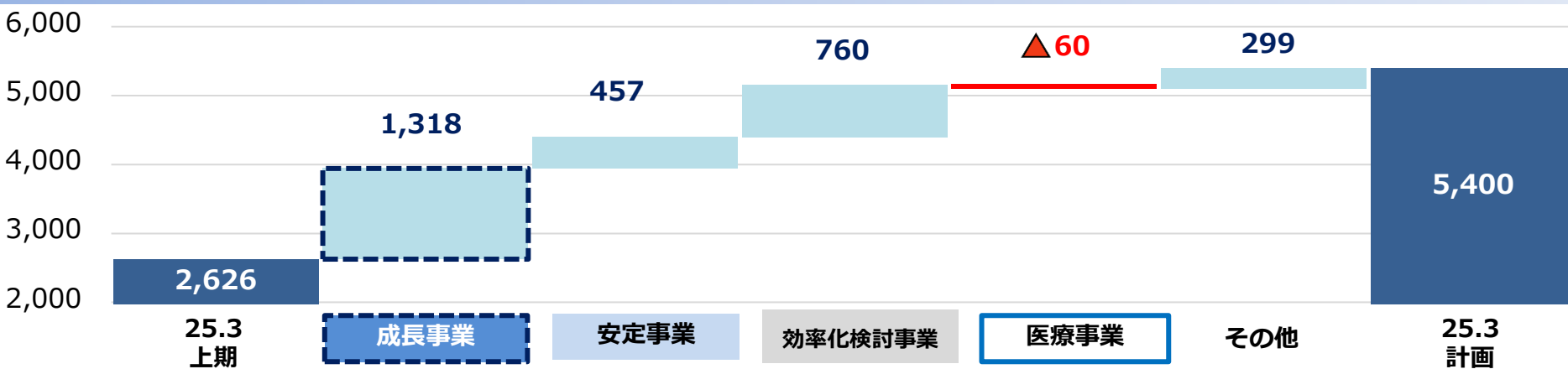
# サブセグメント別予想（対期初計画）

	25.3 期 通期予想（期初計画）			25.3 期 通期修正予想		
	売上高 百万円	営業利益 百万円	利益率 %	売上高 百万円	営業利益 百万円	利益率 %
電子材料	10,913	1,023	9.4	11,313	1,223	10.8
化粧品材料	3,016	63	2.1	2,716	0	0.0
有機化学品	7,377	1,132	15.3	7,000	900	12.9
衛生材料	5,966	465	7.8	5,966	465	7.8
受託加工	6,303	511	8.1	7,103	571	8.0
酸化チタン 亜鉛製品	13,845	763	5.5	13,845	763	5.5
樹脂添加剤	14,308	1,014	7.1	13,558	1,014	7.5
触媒	3,544	▲ 191	▲ 5.4	3,544	▲ 36	▲ 1.0
医薬事業	8,175	100	1.2	8,375	5	0.1
その他	13,553	520	3.8	13,580	494	3.6
<b>連結</b>	<b>87,000</b>	<b>5,400</b>	<b>6.2</b>	<b>87,000</b>	<b>5,400</b>	<b>6.2</b>

## 【営業利益】

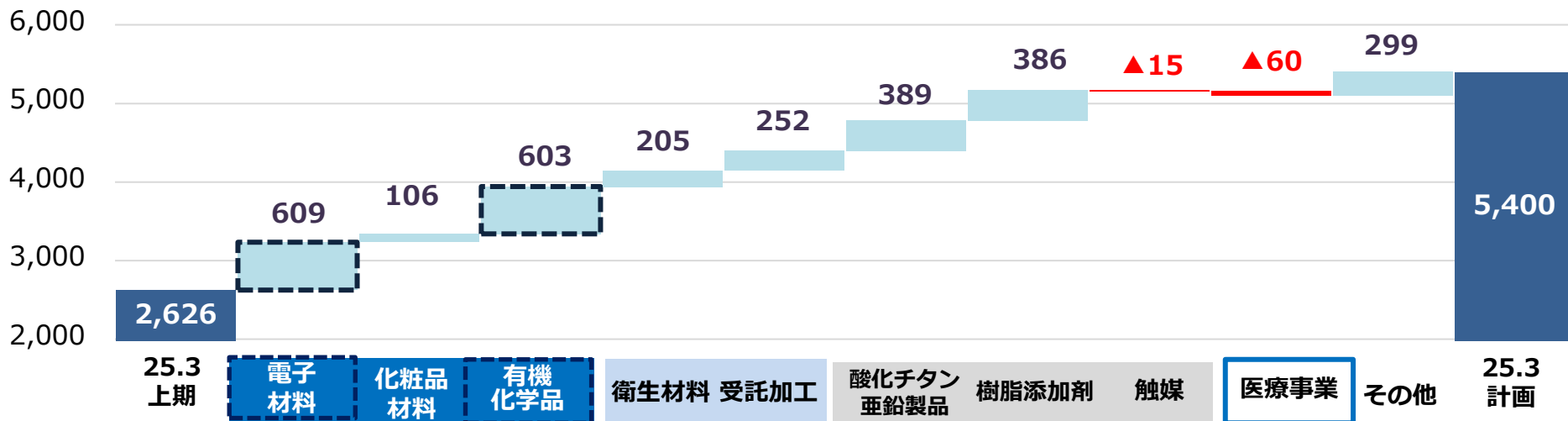
- 電子材料・触媒は、価格  
是正の浸透もあり、売上  
高とともに上方修正
- 有機化学品は、下期に伸  
ばす計画だが、上期の低  
進捗を踏まえ下方修正
- 医療事業は、1Qに発生  
した一過性の評価損があ  
り、下方修正

# サブセグメント営業利益増減（対上期実績）



(百万円)

- 成長事業・安定事業・効率化検討事業のそれぞれで利益の積み上げを見込む。
- 特に、成長事業の電子材料・有機化学品での利益の積み上げを見込む。



# 質疑応答

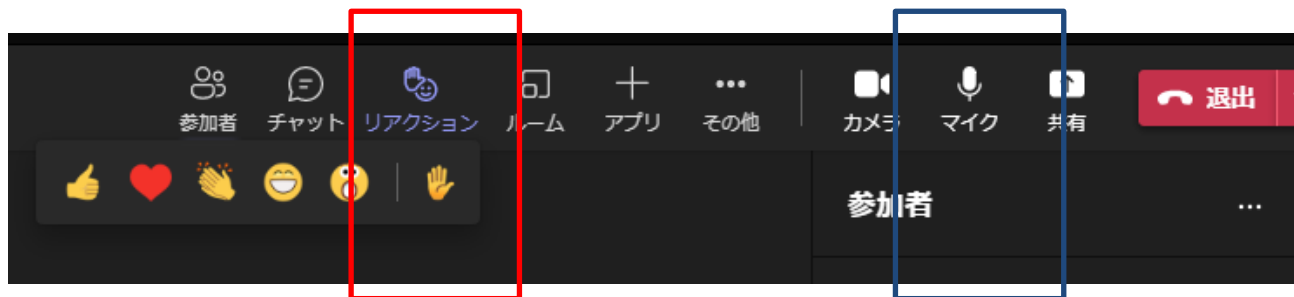
## ■ 質疑応答の順番

① 会場にお越しの皆様 → ② WEBでご参加の皆様

\* 恐れ入りますが、WEBでご参加の皆様は、①での質疑終了までお待ち願います。

\* 会場の時間の関係上、WEBからのご質問をお受けできない可能性がありますこと、予めご了承ください。

## ■ WEBからの質疑方法



- ご質問のある方は画面上の「**リアクション**」から挙手をお願いします。
- 同時に複数の方が手を挙げられた場合には、順番にご案内します（手を挙げるボタンは押したままにしてください）。
- 事務局よりお名前をお呼びしますので、**マイクミュートを解除の上**ご発言を開始してください。（\*当社HPに公開する書き起しでは、お名前を伏せさせていただきます。）
- 質疑応答が終わりましたら同じ「**リアクション**」機能から手をおろし、また**マイク**をオフにしてください。

# 参 考 資 料

- 当社概要
- 事業紹介
- 業績推移等



本 社	堺市堺区戎島町5丁2番地
代 表 者	代表取締役社長 矢倉 敏行
創 業	1918年6月
事業内容	無機化学工業製品、有機化学品、医薬品の 開発・製造・販売
総 資 産	121,246百万円（2024年9月末現在）
純 資 産	77,140百万円（2024年9月末現在）
関係会社	連結子会社15社（国内7社、海外8社）
従業員数	連結2,023名／単体836名（2024年9月末現在）

# 当社グループについて

## 化 学【製造・販売】

堺化学工業(株)

大崎工業(株)

レジノカラー工業(株)

共同薬品(株)

日本カラー工業(株)

(株)片山製薬所

SAKAI CHEMICAL(VIETNAM) CO., LTD.

SIAM STABILIZERS AND CHEMICALS CO., LTD.

PT. S&S HYGIENE SOLUTION

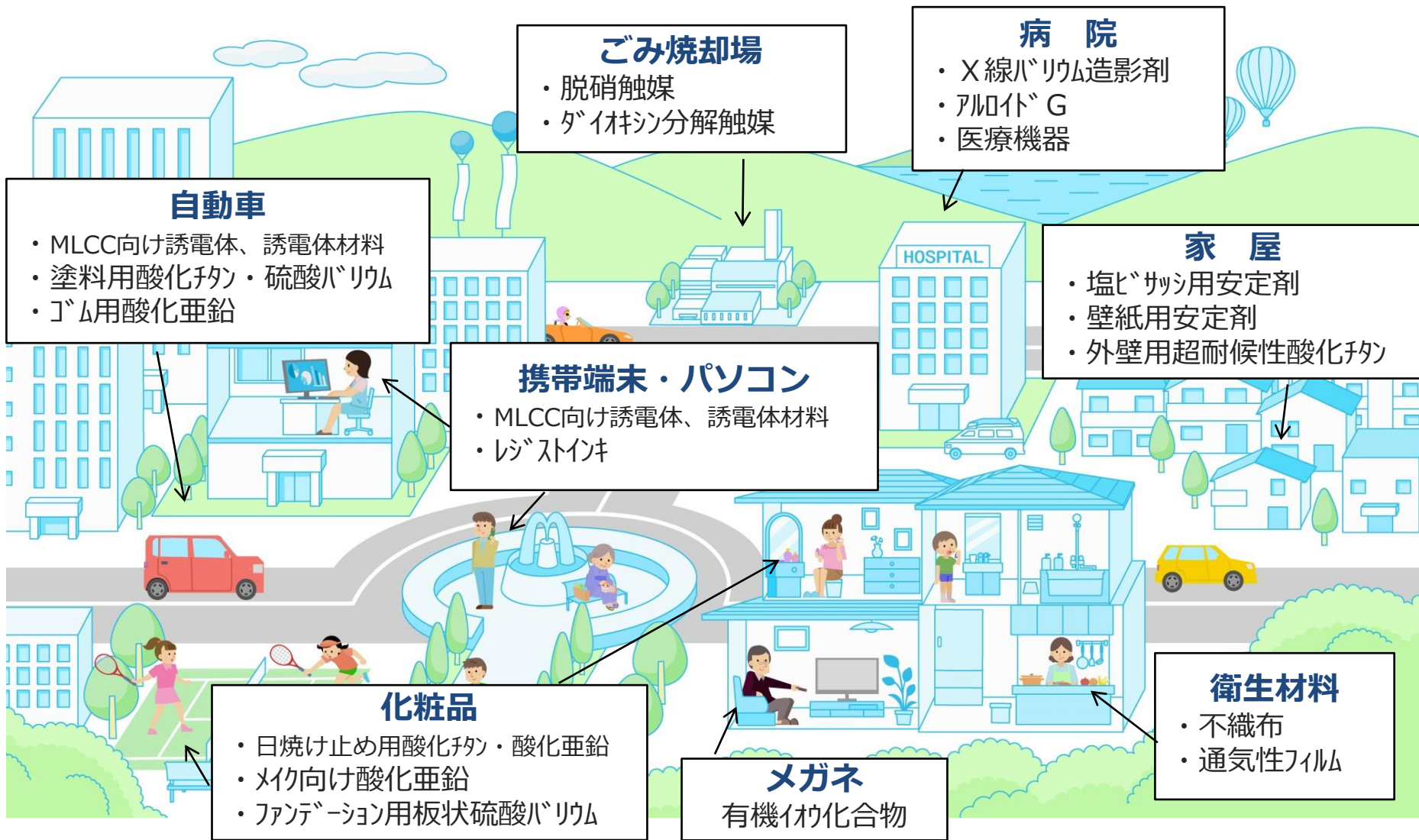
## 化 学【販 売】

堺商事(株)

## 医 療【製造・販売】

カイゲンファーマ(株)

# 暮らしに息づく当社グループ製品





# 事業内容と売上高構成

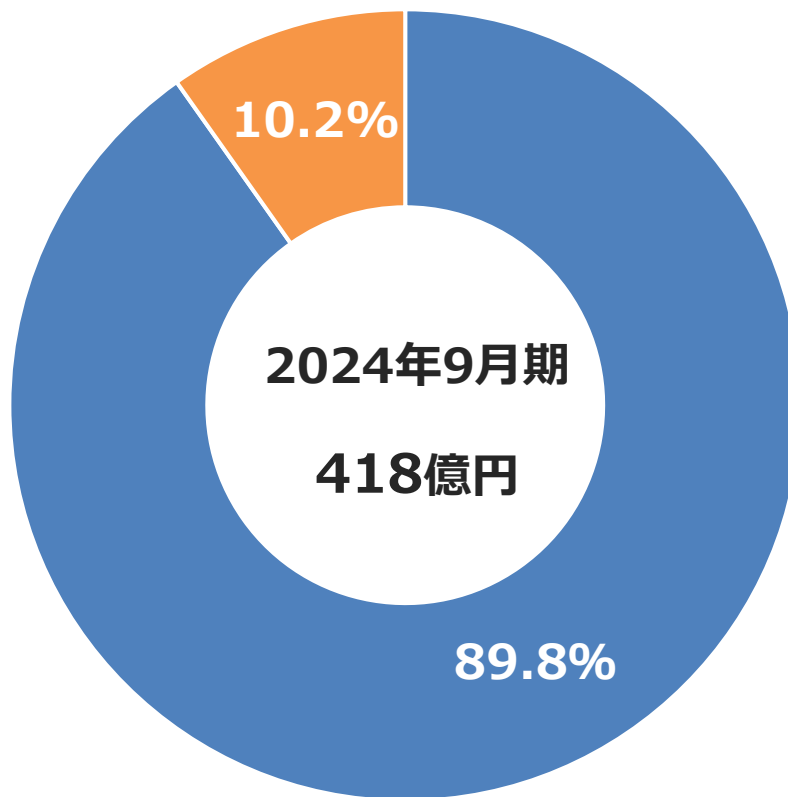
## 医療

バリウム製剤、アルギン酸ナトリウム製剤、医療機器、改源ブランドを柱として、医療用から一般向けまで幅広く医療と健康に貢献する製品・サービスを提供しています。



## 化学

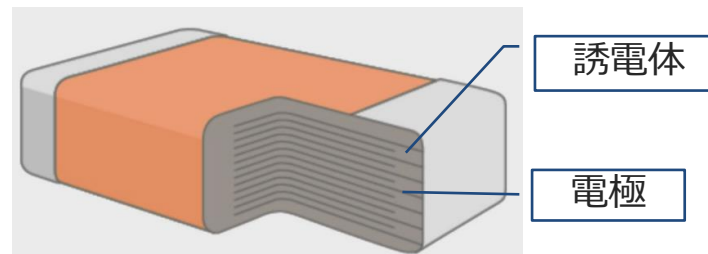
天然鉱石から加工する技術や粉体をコントロールする技術などにより、さまざまな分野に素材を展開している主力事業です。



## 電子材料

### 積層セラミックコンデンサ

- ・誘電体 (チタン酸バリウム)
- ・誘電体材料 (高純度炭酸バリウム)



電子機器には欠かせない積層セラミックコンデンサのメイン材料。

誘電体は電気をたくさん貯める性質を持ちます。

当社は、微細で形が均一に揃った球状の誘電体を開発し、コンデンサの性能向上に貢献していきます。

こんなところに  
使われています



# 事業の紹介 <化学>

## 化粧品材料

日焼け止め、ファンデーション

- ・化粧品材料 … 高い紫外線遮蔽や滑らかな肌触りを  
実現

こんなところに  
使われています



## 有機化学品

プラスチックレンズ、コンクリート、潤滑油、医薬品

- ・有機イオウ化合物 … メガネレンズの屈折率向上、  
コンクリート混和剤としても
- ・有機リン化合物 … 潤滑油添加剤に
- ・医薬品原薬・中間体

こんなところに  
使われています



# 事業の紹介 <化学>

## 衛生材料

おむつ、生理用品

- ・通気性フィルム … 水分を留めて空気だけを通す

海外で需要が増加している中、インドネシア子会社では通気性フィルムを製造しています。

こんなところに  
使われています



## 受託加工事業

無機・有機化学工業製品の受託製造

- …顔料、着色剤、機能性インキ、触媒、樹脂添加剤など

さまざまな機械を取り揃え、幅広い分野に対応しています。



## 樹脂添加剤

パイプ、継手、窓枠、壁紙、ワイヤーハーネス

- ・塩ビ安定剤・非塩ビ安定剤
- ・ハイドロタルサイト ... 非鉛系塩ビ安定剤や  
高い保温性と透明性から農業用フィルムに



塩ビ安定剤は、樹脂の加工性向上や劣化抑制などのために添加されます。現在、世界的に塩ビ安定剤の脱鉛化が進んでおり、非鉛系への切替えが加速しています。

ベトナム子会社では非鉛系安定剤およびその原料となるハイドロタルサイトを製造、タイ子会社では鉛系・非鉛系安定剤を製造し、いずれも東南アジアを中心に販売を拡大しています。

こんなところに  
使われています



# 事業の紹介 <化学>

## 酸化チタン・亜鉛製品

- ・酸化チタン…着色力、隠ぺい力、耐候性、  
化学的安定性に優れる白色顔料
- ・酸化亜鉛…ゴム製品の加硫促進助剤

こんなところに  
使われています

酸化チタンは、塗料やインキ、製紙、プラスチック、  
化学繊維などあらゆる分野に必要とされる素材です。



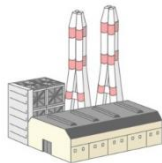
## 触媒

ごみ焼却場、火力発電所、マーガリン、接着剤、光学フィルム

- ・脱硝触媒 … 窒素酸化物を除去
- ・プロセス触媒(ニッケル触媒) … 油脂・樹脂の水素化など

ニッケル触媒は使用先の光学フィルムや紙おむつ接着剤の  
需要増加に伴い、事業を拡大を目指しています。

こんなところに  
使われています





## カイゲンファーマ(株)

### X線バリウム造影剤

…消化管撮影

1931年に原料となる薬用硫酸バリウムの製造を開始。

定期検診でお馴染みのものですが、海外への輸出も行っています。



### 医療機器

・内視鏡用洗浄消毒器

バリウムから胃カメラ検診への移行に対応。

薬価改定の影響を受けない事業と位置付け、開発に注力しています。



### アルロイドG

…消化性潰瘍・逆流性食道炎治療薬

胃・十二指腸潰瘍の止血や粘膜保護、逆流性食道炎における自覚症状を改善。



### 一般用医薬品

・「改源」シリーズ  
・カイゲン顆粒  
・カイゲンパックIB顆粒



「メイドインジャパン」品質で台湾市場への販売を開始。

# 化学事業の製品別売上高・営業利益推移

金額単位：百万円

		2020.3	2021.3	2022.3	2023.3	2024.3	2024.9
電子材料	売上高	8,499	9,723	10,857	8,939	8,978	5,886
	営業利益	117	23	1,700	946	280	614
化粧品材料	売上高	2,534	1,698	2,460	2,790	2,498	1,212
	営業利益	735	292	301	430	▲ 93	▲ 106
有機化学品	売上高	6,172	6,882	7,321	8,014	7,813	3,189
	営業利益	1,271	1,476	1,639	1,600	1,395	297
衛生材料	売上高	8,070	9,254	5,388	5,496	5,455	2,878
	営業利益	174	440	331	327	404	260
受託加工	売上高	6,811	6,550	6,947	6,244	6,177	3,155
	営業利益	698	632	1,029	587	546	319
酸化チタン・亜鉛製品	売上高	12,771	11,866	13,257	15,067	14,269	6,929
	営業利益	▲ 125	227	744	▲ 34	▲ 432	374
樹脂添加剤	売上高	12,583	11,543	12,489	13,354	13,418	6,558
	営業利益	169	397	966	404	636	628
触 媒	売上高	3,703	3,210	3,644	4,193	3,527	1,615
	営業利益	26	▲ 82	190	179	73	▲ 21
その他	売上高	17,412	16,079	9,875	11,890	11,970	6,184
	営業利益	356	447	170	▲ 305	46	193
合 計	売上高	<b>78,555</b>	<b>76,821</b>	<b>72,243</b>	<b>75,992</b>	<b>74,110</b>	<b>37,609</b>
	営業利益	<b>3,421</b>	<b>3,851</b>	<b>7,076</b>	<b>4,135</b>	<b>2,855</b>	<b>2,560</b>

注：営業利益から本社部門費を差し引いた値です。





# 化学事業の四半期推移

金額単位：百万円

化学事業サブセグメント		2023.3 1Q	2023.3 2Q	2023.3 3Q	2023.3 4Q	2024.3 1Q	2024.3 2Q	2024.3 3Q	2024.3 4Q	2025.3 1Q	2025.3 2Q
電子材料	売上高	2,685	2,271	1,984	1,998	2,144	1,953	2,267	2,613	3,103	2,783
	営業利益	446	306	158	35	54	▲ 30	114	141	340	274
化粧品材料	売上高	714	634	632	809	630	563	613	690	757	454
	営業利益	141	61	76	151	69	▲ 78	5	▲ 90	22	▲ 128
有機化学品	売上高	2,172	2,211	1,496	2,133	2,465	1,262	1,255	2,829	1,954	1,234
	営業利益	361	578	309	350	591	215	79	509	415	▲ 117
衛生材料	売上高	1,225	1,426	1,458	1,385	1,399	1,364	1,334	1,358	1,460	1,418
	営業利益	74	61	30	160	134	121	110	37	137	122
受託加工	売上高	1,704	1,487	1,585	1,467	1,543	1,465	1,626	1,541	1,609	1,546
	営業利益	240	127	110	108	114	98	170	163	174	144
酸化チタン・亜鉛製品 (化粧品材料を除く)	売上高	3,841	3,755	3,912	3,557	3,680	3,401	3,807	3,378	3,641	3,288
	営業利益	303	58	▲ 172	▲ 223	▲ 212	▲ 307	▲ 45	131	273	100
樹脂添加剤	売上高	3,281	3,430	3,291	3,350	3,382	3,561	3,469	3,004	3,185	3,372
	営業利益	169	58	▲ 25	116	120	152	150	211	279	348
触媒	売上高	910	1,151	981	1,150	662	1,026	735	1,102	753	861
	営業利益	23	80	45	29	▲ 82	109	8	36	▲ 61	40
その他	売上高	2,919	2,747	3,574	2,649	3,181	2,622	2,978	3,288	3,288	2,895
	営業利益	▲ 26	▲ 126	230	▲ 383	80	▲ 382	79	269	27	165
合計	売上高	19,455	19,116	18,918	18,502	19,091	17,221	18,088	19,708	19,753	17,855
	営業利益	1,736	1,289	762	347	871	▲ 99	672	1,411	1,610	950

注：営業利益は本社部門費を差し引いた値です。

# 医療事業の製品別売上高推移

金額単位：百万円

	2020.3	2021.3	2022.3	2023.3	2024.3	2024.9
バリウム	2,291	2,043	1,924	1,882	1,775	1,059
アルロイドG	1,221	1,193	1,167	1,061	959	442
医療機器	2,445	2,453	2,611	2,635	2,792	1,468
一般用医薬品	1,144	1,026	812	853	927	366
その他	1,722	1,557	1,377	1,435	1,542	928
合計	8,823	8,272	7,892	7,868	7,995	4,264

# ご清聴ありがとうございました。

本資料は、情報の提供を目的とし、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成したものであり、リスクや不確実性を含んでいるため、実際の業績はこれと異なる結果となる可能性があります。

また、化学事業のサブセグメントの営業利益については、任意で公表しているものであり、監査を受けておりませんので、参考値とご承知おきください。

ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に依存して投資判断されることにより生じうるいかなる損失に関して、当社は責任を負いません。